

日時：平成 20（2008）年 6 月 4 日 18:00～20:00

会場：東京外国語大学 語学研究所

題目：マレー語接頭辞 **meN-**のアスペクト的意味

発表者：野元 裕樹（ミネソタ大学大学院／マレー語学，統語論・意味論）

マレー語の動詞接頭辞 **meN-**は，自動詞文において進行の視点アスペクト的な意味を生じさせる。

- (1) a. **Harga elektrik turun.**  
価格 電気 落ちる  
「電力価格が下がった。」(The price of electricity fell.)
- b. **Harga elektrik men-(t)urun.**  
価格 電気 **meN-**落ちる  
「電力価格が下がっている。」(The price of electricity is falling.)

しかしながら，自動詞文において **meN-**がもたらす効果は，他動詞文では捉えるのが難しい。そのため，他動詞文に現れる **meN-**にはしばしば，アスペクトとは無縁の分析がなされてきた。本稿では，**meN-**が自動詞文だけでなく，他動詞文においても進行の視点アスペクト的な意味を担っていると主張する。

一般に，進行の視点アスペクトは状態文での生起が制限されている（Vendler 1967: 104; Dowty 1979; Smith 1983）。例えば，英語の文，\*John is knowing the answer や\*I am owning a car は非文法的である。同様の生起制限がマレー語の **meN-**に関しても観察される。我々は，Utusan Malaysia 紙（2006年1月1-5日）の一面記事から成るコーパスから，一般に状態動詞と考えられている動詞（とそれを含む文）を80例採集した。そのうちのほとんどが **meN-**を伴わない。例えば，(2b)のような状態文は見つからない。

- (2) a. **Mereka suka masakan Jepun.**  
彼ら 好む 料理 日本  
「彼らは日本食が好きだ。」
- b. \***Mereka meny-(s)uka masakan Jepun.**  
彼ら **meN-**好む 料理 日本

コーパスには、meN-が状態文には生起しないという主張の反例となり得る例も含まれていた。すなわち、meN-が状態文と考えられる文に現れるような例である。そのような meN-動詞は、2つの類に分けられる。すなわち、接尾辞-iを伴う meN-...-i 動詞 (e.g. meny-(s)uka-i 「好む」) と心理状態を表す動詞 (e.g. meng-anggap 「みなす」) である。

我々は、これらの動詞を含む文はそもそも状態文ではないので、我々の主張に対する反例にはあたらないと主張する。このことは、上記2類の動詞に対して、状態文と非状態文を区別するテストを適用することにより論証できる。まず、マレー語の状態性のテストとして、以下の4つのテストが有効である。(一般に進行相標識と考えられている sedang は、有効なテストではない。)

- ① 非状態文だけが命令文となれる (Dowty 1979: 55 に基づく)。
- ② 非状態文だけが副詞 perlahan-lahan 「ゆっくり」と共起できる (Maslida 2005)。
- ③ 非状態文だけが動詞 memujuk 「説得する」、memaksa 「強いる」の補部になれる (Dowty 1979: 55 に基づく)。
- ④ 非状態文だけが擬似分裂文に生起できる (Dowty 1979: 55 に基づく)。

これらのテストの結果、上記2類の動詞は、tahu 「知る」のような状態動詞ではなく、minum 「飲む」などの非状態動詞と同様の振舞いを示した。すなわち、上記2類の動詞は、①命令文になれ、②副詞 perlahan-lahan 「ゆっくり」と共起でき、③動詞 memujuk 「説得する」、memaksa 「強いる」の補部になれ、④擬似分裂文に生起できる。

同じ4つのテストを、非能格動詞、非対格動詞および形容詞を基体とする meN-形自動詞にも適用した結果、meN-形は上記2類の動詞と同様に、非状態動詞の振舞いを示した。従って、すべてのタイプの動詞に対して「接頭辞 meN-は状態文には生起しない」という主張が成り立つ。通言語的にこの種の制限が進行の視点アスペクトに見られることと、自動詞文において meN-が進行の視点アスペクト的な意味をもたらすことを兼ね合わせて考えれば、meN-は自動詞文、他動詞文両方において、進行の視点アスペクト的な意味を担うと結論できる。